

令和4年度
伝統文化親子教室事業
「教室実施型」
募集案内

(記入例)



文化庁



VI 応募書類の記入例

様式1の記入例

必須様式

令和4年度 様式1

株式会社KNTビジネスクリエイト
伝統文化親子教室事業 事務局殿

1 令和 3 年 11 月 5 日

2 団 体 名 ○○神楽保存会
郵便番号 〒 000 - 0000
住 所 ○○県△△市○○町3-2-1
代表者職名 会長
代表者氏名 ○○ ○○ (印省略)

※規約・定款等に記載されている団体名・郵便番号・住所・代表者職名・代表者氏名を正確に記入してください。

※代表者氏名は本名で記入してください。芸名・雅号は不可。
流派の代表者（家元等）ではなく、事業を実施する際の責任者を代表として記入してください。

令和4年度伝統文化親子教室事業（教室実施型）提案書

令和4年度伝統文化親子教室事業（教室実施型）について、実施したいので、募集案内の内容に同意したうえで、関係書類を添えて下記のとおり提案します。

記

事業の名称	3 ○○神楽親子教室 ※事業の名称には、特定の流派名、団体名、又は商品名等を冠に付けないでください。
事業の着手及び完了の予定期日	4 着 手 令和4年度伝統文化親子教室事業に係る採択日 完 了 令和 4 年 12 月 23 日 ※完了の予定期日は、令和5年1月31日までの日付で記入してください。

		5 <事務担当者連絡先>	<代表者連絡先>
氏 名		□□ □□	○○ ○○
連絡先 (TEL)		***-***-***	***-***-***
" (FAX)		***-***-***	***-***-***
" (Eメールアドレス)		***@***.***.***	***@***.***.***
書類等の郵送先	郵便番号	〒 000 - 0000	〒 000 - 0000
	住 所	○○県△△市○○町2-1-3	○○県△△市○○町3-2-1
その他（日中連絡先）		080-***-***	090-***-***
採択通知等の送付先 ※事務担当者/代表者のどちらか希望する方に「○」を記入		6 ○	

※事務担当者は、必ず連絡先電話番号のほか、FAX 又は添付ファイルの送受信が可能な Eメールアドレスを持っている方を選任してください。

Ⅵ 応募書類の記入例

番号	内 容
1	応募する年月日を記入してください。
2	規約・定款等に記載されている団体名・郵便番号・住所・代表者の職名・代表者氏名を正確に記入してください。代表者氏名は本名で記入してください。芸名・雅号は不可。流派の代表者（家元等）ではなく、事業を実施する際の責任者を代表として記入してください。
3	事業の名称を記入してください。事業の名称には、特定の流派名、団体名、又は商品名等を冠に付けしないでください。
4	事業の着手及び完了の予定期日を記入してください。完了の予定期日は令和5年1月31日までの日付で記入してください。いかなる場合も令和5年1月31日を超えて応募することはできません。また、着手日（採択日）は予算の成立状況等により変動します。
5	応募書類の問合せ窓口となる事務担当者と代表者御本人の連絡先として、氏名・TEL・FAX・Eメールアドレス・書類等の郵送先（郵便番号、住所）・その他（日中連絡先）を記入してください。 事務担当者は、必ずTELのほか、FAX または添付ファイルの送受信が可能なEメールアドレスを持っている方としてください。事務担当者がいずれの連絡先も持っていない場合は、代表者御本人のFAX または添付ファイルの送受信が可能なEメールアドレスでも構いません。その他（日中連絡先）には、日中に連絡が取れる連絡先番号を記入してください。
6	採択通知等の送付先として、事務担当者と代表者のどちらを希望するか、希望する方に○を記入してください。未記入及び両方選択されている場合は、事務担当者宛てに採択通知等を送付しますので、ご了承ください。

Ⅵ 応募書類の記入例

様式2-1の記入例

伝統文化親子教室を実施する場合に必要な様式

令和4年度 様式2-1

<事業計画書>

1 応募（第1次審査）・申請（第2次審査）

※申請（第2次審査）時に記載

2 団体コード □□-□□□□-□□

事業の名称

〇〇神楽親子教室

3

伝 統 文 化 親 子 教 室

分 野

該当する分野を
全て○枠で囲い、
分野別に開催回数を
記入してください。

イ. 神楽	18 回	ロ. 獅子舞	回	ハ. お囃子	回	ニ. イ〜ハ以外の 民俗芸能	回
ホ. 祭り行事	回	ヘ. 民謡・民舞	回	ト. 和太鼓	回	チ. 能楽	回
リ. 邦楽	回	ス. 邦舞	回	ル. 伝統工芸	回	ヲ. 百人一首 ・加勢	回
リ. 囲碁	回	カ. 将棋	回	3. 華道	回	ヲ. 茶道	回
レ. 書道	回	リ. 武道	回	ワ. 和装 ・礼法	2 回	ネ. 食文化 ・郷土料理	回
ナ. 上記以外の 分野	回	発表会・大会	1 回				

内容を記載（ニ、ナを選んだ場合）

【

】

複数分野を選択した
場合、その付随・関
連理由

主目的分野である神楽では、最終的に〇〇の演目を披露する。
大会で衣裳を正しく着装するため、和装礼法をあわせて実施する。

開催場所
施設名、地名等を
具体的に記入してくだ
さい。

教室 〇〇公民館 発表会・大会 〇〇公会堂（〇〇文化フェスティ
バル）

参加者
募集対象とするものを
全て○枠で囲ってくだ
さい。

幼稚園・保育園 小学校 1年 2年 3年 4年 5年 6年
中学校 1年 2年 3年 高等学校 1年 2年 3年 障害のある子供

募集する
子供の人数

全体で 15 人 ※親等の保護者の人数は含めないでください。

参加者を複数グループに分けて教室を開催する場合は内訳を記載 【 人 × グループ 】

対象
事業に係る
地域性のある
伝統文化等
の概要

対象分野	イ. 神楽	名称	〇〇〇〇神楽
文化財指定の有無 ※どちらかを○枠で囲ってください。	有	指定名	国指定重要無形民俗文化財
由来、歴史 (何時頃から行われているのか)	長保〇年あるいは寛弘〇年（明治初期の「〇〇」の記載によれば）		
対象分野		名称	
文化財指定の有無 ※どちらかを○枠で囲ってください。	有	指定名	
由来、歴史 (何時頃から行われているのか)			
対象分野		名称	
文化財指定の有無 ※どちらかを○枠で囲ってください。	有	指定名	
由来、歴史 (何時頃から行われているのか)			

<事業目的>

※教室の事業目的と一致する項目を全て○枠で囲ってください。
項目1〜5以外に目的がある場合は、項目6から順番に○枠で囲い、事業目的欄に簡潔に記入してください。

項目	事業目的
1. 伝統文化等の継承	地域に伝わる伝統文化等の活動に参加することで、伝統文化等が後世に伝わることを目的とする
2. 伝統文化等への関心	伝統文化等への関心を高めることを目的とする
3. 豊かな人間性の 涵養（かんよう）	子どもたちの豊かな心や感性、創造性をはぐくむことを目的とする
4. 伝統文化等への 親の関心	親の伝統文化等への関心を高めることで、子供たちの個性や能力の発見や、伝統文化を理解する 機会の増加を目的とする
5. 周辺地域の関係	子どもたちが地域住民と関わることで地域とのつながりを強化することを目的とする
6. その他①	
7. その他②	

Ⅵ 応募書類の記入例

番号	内 容
1	「応募（第1次審査）」に○を付けてください。
2	記載しないでください。（申請（第2次審査）時に記載します。）
3	事業の名称を記入してください。提案書（様式1）の事業の名称と同じ内容を記入してください。
4	実施する分野を全て○枠で囲い、分野別に開催回数を記入してください。
5	上記の分野のうち、「ニ、イ～ハ以外の民俗芸能」、「ケ、上記以外の分野」を選択した場合、事業を行う分野を簡潔に記入してください。伝統文化等と判断ができない分野は、対象となりません。
6	複数の分野で教室を実施する場合、分野間の付随・関連理由を記入してください。
7	教室、発表会・大会を開催する場所（施設名称、地名等）を記入してください。教室の開催場所が学校の場合、学校の授業中とみなされる可能性があります。学校の授業の一環として教室を開催することはできません。発表会・大会について、文化祭や運動会などの学校行事で開催することはできません。
8	募集する参加者を全て○枠で囲ってください。幼児又は高校生だけを対象とした教室は事業対象外です。
9	募集する子供の全体での人数を記入してください。親等の保護者の人数は含めないでください。参加者を複数グループに分けて教室を開催する（午前の部10人、午後の部10人など）場合、内訳も記入してください。
10	対象事業に係る地域性のある伝統文化等の概要として、対象分野・名称・指定名・由来、歴史を記入してください。文化財指定の有無は、“有”、“無”のどちらかを○枠で囲ってください。対象事業に係る地域性のある伝統文化等が2つある場合は、（2）に記入してください。3つある場合は、（3）に記入してください。
11	対象分野は、上記の番号④で○枠で囲った分野（「イ、神楽」～「ケ、上記以外の分野」）を記入してください。
12	文化財指定の有無が、“有”の場合、必ず指定名を記入してください。
13	事業内容として、＜事業目的＞・＜事業の目標及び事業の見込まれる効果等＞・＜開催日程（予定）＞を記入、及び該当項目を○枠で囲ってください。
14	教室の事業目的と一致する項目を全て○枠で囲ってください。項目1～5以外に目的がある場合は、項目6から順番に○枠で囲い、事業目的欄に簡潔に記入してください。

VI 応募書類の記入例

様式2-1の記入例

伝統文化親子教室を実施する場合に必要な様式

13

事業内容

<事業の目標及び事業の見込まれる効果等>

※事業の目標と見込まれる事業効果に一致する項目を全て○枠で囲ってください。○枠で囲った事業の目標において、その他に見込まれる事業効果がある場合は、(その他)欄に簡潔に記入してください。
項目1～5以外に、事業の目標と見込まれる事業効果がある場合は、項目6から順番に○枠で囲い、簡潔に記入してください。

15	事業の目標	見込まれる事業効果
1.	行事への参加または親へのお披露目(1回以上)	地域に伝わる伝統文化等の活動に参加することで、伝統文化等が後世に伝わることにつながる(その他)
2.	子供たちのアンケートで「伝統文化等に興味・関心をもつ」が全体の80%とする	身近に伝統文化等を感じることができ、日本文化に興味・関心をもつことにつながる(その他)
3.	一連の流れが理解できる日程の実施(5回かつ3日以上)	伝統文化を修得したことによって、自分に自信が持てるようになり、何事にも意欲が生まれる(その他)
4.	親へのアンケートで「子どもの成長を感じた」が全体の80%とする	親の伝統文化等への関心が増すことにより、次世代を担う子供たちの伝統文化等の行事等への参加につながる(その他)
5.	行事への参加または地域住民へのお披露目(1回以上)	地域に伝わる伝統文化等の活動に参加することで、地域住民と挨拶ができたり、礼儀正しくなる。また、地域と関わりのなかった家庭が地域行事等に参加するようになる(その他)
6.		
7.		
8.		

<開催日程(予定)>

※教室／発表会・大会の内容・回数・日程(予定)・曜日・時間(開始時間～終了時間)を具体的に記入してください。
回数について、同じ内容の教室を反復して行う場合は、その実施回数を記入してください。

16	教室／発表会・大会の内容	回数	日程(予定)	曜日	時間(※1)
教室	・〇〇神楽の説明 ・指導者(〇〇神楽保存会)による実演	1回	7月9日	土	[始] 14:00 [終] 15:00
教室	・扇の扱い方、足の動かし方 ・太鼓の稽古	2回	7月16日から 毎週土曜日	土	[始] 14:00 [終] 15:00
教室	・獅子頭の持ち方、足の動かし方 ・太鼓の稽古	2回	8月6日から 毎週土曜日	土	[始] 14:00 [終] 15:00
教室	・グループ毎(笛、鼓、太鼓)の曲練習 ・獅子の舞い方	6回	8月20日から 毎週土曜日	土	[始] 14:00 [終] 15:00
教室	・グループ毎(笛、鼓、太鼓)の曲練習 ・全体練習	7回	10月1日から 毎週土曜日	土	[始] 14:00 [終] 15:00
教室	・着物の着付、帯の結び方 ・礼儀作法	2回	11月5日 11月12日	土	[始] 15:00 [終] 16:00
発表会・大会	〇〇市文化フェスティバルに参加	1回	11月23日	祝	[始] 10:00 [終] 12:00
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]

※1 学校の授業にあたる時間帯等(文化祭や運動会などの学校行事を含む)を利用して教室を開催することはできません。

実施回数	教室	20回	合計	21回	17
	発表会・大会	1回			

18

都道府県等による文化活動や支援事業等との連携状況

〇〇県伝統文化体験プログラムに登録
△△市主催文化フェスティバル(11/23)に参加
〇〇県文化振興財団から100,000円助成

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更したり、ページを追加しても差し支えありません。

VI 応募書類の記入例

番号	内 容
15	事業の目標と見込まれる事業効果に一致する項目を全て○枠で囲ってください。○枠で囲った事業の目標において、その他に見込まれる事業効果がある場合は、（その他）欄に簡潔に記入してください。項目1～5以外に、事業の目標と見込まれる事業効果がある場合は、項目6から順番に○枠で囲い、「事業の目標」欄と「見込まれる事業効果」欄に簡潔に記入してください。
16	予定している開催日程として、教室／発表会・大会の内容・回数・日程（予定）・曜日・時間（開始時間～終了時間）を具体的に記入してください。回数について、同じ内容の教室を反復して行う場合は、その実施回数を記入してください。日程（予定）・曜日・時間について、学校の授業にあたる時間帯等（文化祭や運動会などの学校行事を含む）を利用して実施するなど、学校の授業の一環として教室を開催することはできません。
17	教室、発表会・大会の実施回数の合計値を記入してください。合計欄は、教室の実施回数合計値と、発表会・大会の実施回数合計値の合計値を記入してください。
18	本事業が、都道府県、市区町村及び公益法人等が実施している文化活動や事業等と連携（予定含む）した取組である場合は、連携事業の名称、実施日、支援金額等を記入してください。

Ⅵ 応募書類の記入例

様式2-2の記入例

放課後子供教室との連携の場合に必要な様式

令和4年度 様式2-2	
1 2 ※申請（第2次審査）時に記載 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	
事業計画書 応募（第1次審査）・申請（第2次審査） 団体コード 事業の名称 〇〇神楽親子教室	
文部科学省の「放課後子供教室」と連携した取組 文部科学省の「放課後子供教室」を担当している市区町村 担当部局名 〇〇県△△市教育委員会社会教育課 連絡先 *****（直通） 連携する「放課後子供教室」の活動名 △△市こどもふれあい教室	
分野 1. 神楽 13 回 ロ. 獅子舞 回 ハ. お囃子 回 ニ. イ〜ハ以外の民俗芸能 回 ホ. 祭り行事 回 ヘ. 民謡・民舞 回 ト. 和太鼓 回 チ. 能楽 回 リ. 邦楽 回 ヌ. 邦舞 回 ル. 伝統工芸 回 ヲ. 百人一首・加々 回 リ. 囲碁 回 カ. 将棋 回 三. 華道 回 ク. 茶道 回 レ. 書道 回 ヲ. 武道 回 ワ. 和装・礼法 回 ネ. 食文化・郷土料理 回 ナ. 上記以外の分野 回 該当する分野を全て○枠で囲い、分野別に開催回数を記入してください。	
内容に記載（ニ、ナを選んだ場合） 【 】	
複数分野を選択した場合、その付随・関連理由	
開催場所 教室 △△市小学校体育館、〇〇公民館 ※施設名、地名等を具体的に記入してください。	
参加者 募集対象とするものを全て○枠で囲ってください。 幼稚園・保育園 小学校 1年 2年 3年 4年 5年 6年 中学校 1年 2年 3年 高等学校 1年 2年 3年 障害のある子供	
募集する子供の人数 全体で 30 人 ※親等の保護者の人数は含めないでください。 参加者を複数グループに分けて教室を開催する場合は内訳を記載 【 人 × グループ 】	
対象分野 イ. 神楽 13 名称 △△神楽 文化財指定の有無 ※どちらかを○枠で囲ってください。 有 無 指定名 国指定重要無形民俗文化財 由来、歴史 （何時頃から行われているのか） 寛永〇年からの歴史があり、〇〇県の〇部に広くあった△△に由来し、〇〇町に深く根付いています。 対象分野 名称 文化財指定の有無 ※どちらかを○枠で囲ってください。 有 無 指定名 由来、歴史 （何時頃から行われているのか） 対象分野 名称 文化財指定の有無 ※どちらかを○枠で囲ってください。 有 無 指定名 由来、歴史 （何時頃から行われているのか）	
事業目的 ※「放課後子供教室」の事業目的と一致する項目を全て○枠で囲ってください。 項目1〜5以外に目的がある場合は、項目6から順番に○枠で囲い、事業目的欄に簡潔に記入してください。 項目 事業目的 1. 伝統文化等の継承 地域に伝わる伝統文化等の活動に参加することで、伝統文化等が後世に伝わることを目的とする 2. 伝統文化等への関心 伝統文化等への関心を高めることを目的とする 3. 豊かな人間性の涵養（かんよう） 子どもたちの豊かな心や感性、創造性をはぐくむことを目的とする 4. 伝統文化等への親の関心 親の伝統文化等への関心を高めることで、子供たちの個性や能力の発見や、伝統文化を理解する機会の増加を目的とする 5. 周辺地域との関係 子どもたちが地域住民と関わることで地域とのつながりを強化することを目的とする 6. その他① 7. その他②	

Ⅵ 応募書類の記入例

漏れなく記入してください。

記入漏れがある場合は、文部科学省の「放課後子供教室」と連携した取組と見なせなくなる場合があります。

番号	内 容
1	「応募（第1次審査）」に○を付けてください。
2	記載しないでください。（申請（第2次審査）時に記載します。）
3	事業の名称を記入してください。提案書（様式1）の事業の名称と同じ内容を記入してください。
4	文部科学省の「放課後子供教室」を担当している市区町村の担当部局名と連絡先を記入してください。
5	連携して実施する「放課後子供教室」の活動名を記入してください。貴団体が活動を予定している伝統文化親子教室名ではありません。市区町村が文部科学省に提出する事業計画書に記入される「放課後子供教室」の活動名を正確に記入してください。
6	実施する分野を全て○枠で囲い、分野別に開催回数を記入してください。
7	上記の分野のうち、「ニ、イ〜ハ以外の民俗芸能」、「ナ、上記以外の分野」を選択した場合、事業を行う分野を簡潔に記入してください。伝統文化等と判断ができない分野は、対象となりません。
8	複数の分野で教室を実施する場合、分野間の付随・関連理由を記入してください。
9	「放課後子供教室」を開催する場所（施設名称、地名等）を記入してください。「放課後子供教室」の開催場所が学校の場合、学校の授業中とみなされる可能性があります。学校の授業の一環として教室を開催することはできません。
10	募集する参加者を全て○枠で囲ってください。幼児又は高校生だけを対象とした「放課後子供教室」は事業対象外です。
11	募集する子供の全体での人数を記入してください。親等の保護者の人数は含めないでください。参加者を複数グループに分けて教室を開催する（午前の部10人、午後の部10人など）場合、内訳も記入してください。
12	対象事業に係る地域性のある伝統文化等の概要として、対象分野・名称・指定名・由来、歴史を記入してください。文化財指定の有無は、「有」、「無」のどちらかを○枠で囲ってください。対象事業に係る地域性のある伝統文化等が2つある場合は、（2）に記入してください。3つある場合は、（3）に記入してください。
13	対象分野は、上記の番号⑥で○枠で囲った分野（「イ、神楽」～「ナ、上記以外の分野」）を記入してください。
14	文化財指定の有無が、「有」の場合、必ず指定名を記入してください。
15	事業内容として、＜事業目的＞・＜事業の目標及び事業の見込まれる効果等＞・＜開催日程（予定）＞を記入、及び該当項目を○枠で囲ってください。
16	「放課後子供教室」の事業目的と一致する項目を全て○枠で囲ってください。項目1〜5以外に目的がある場合は、項目6から順番に○枠で囲い、事業目的欄に簡潔に記入してください。

VI 応募書類の記入例

様式2-2の記入例

放課後子供教室との連携の場合に必要な様式

＜事業の目標及び事業の見込まれる効果等＞

※事業の目標と見込まれる事業効果に一致する項目を全て○枠で囲ってください。○枠で囲った事業の目標において、その他に見込まれる事業効果がある場合は、（その他）欄に簡潔に記入してください。
項目1～5以外に、事業の目標と見込まれる事業効果がある場合は、項目6から順番に○枠で囲い、簡潔に記入してください。

事業の目標	見込まれる事業効果
1. 行事への参加または親へのお披露目（1回以上）	地域に伝わる伝統文化等の活動に参加することで、伝統文化等が後世に伝わることにつながる（その他）
2. 子供たちのアンケートで「伝統文化等に興味・関心をもつ」が全体の80%とする	身近に伝統文化等を感じることができ、日本文化に興味・関心をもつことにつながる（その他）
3. 一連の流れが理解できる日程の実施（5回かつ3日以上）	伝統文化を修得したことによって、自分に自信が持てるようになり、何事にも意欲が生まれる（その他）
4. 親へのアンケートで「子どもの成長を感じた」が全体の80%とする	親の伝統文化等への関心が増すことにより、次世代を担う子供たちの伝統文化等の行事等への参加につながる（その他）
5. 行事への参加または地域住民へのお披露目（1回以上）	地域に伝わる伝統文化等の活動に参加することで、地域住民と挨拶ができた、礼儀正しくなる。また、地域と関わりのなかった家庭が地域行事等に参加するようになる（その他）
6.	
7.	
8.	

事業内容

＜開催日程（予定）＞

※「放課後子供教室」の内容・回数・日程（予定）・曜日・時間（開始時間～終了時間）を具体的に記入してください。
回数について、同じ内容を反復して行う場合は、その実施回数を記入してください。

「放課後子供教室」の内容		回数	日程（予定）	曜日	時間（※1）
基礎練習Ⅰ	・笛、鼓、太鼓のバチの持ち方 ・曲の部分練習	4回	9月の 毎週土曜日	土	[始] 15:00 [終] 16:00
基礎練習Ⅱ	・獅子頭の持ち方、足の動かし方	4回	10月の 毎週土曜日	土	[始] 15:00 [終] 16:00
基礎練習Ⅲ	・笛、鼓、太鼓の曲練習 ・獅子の舞い方	5回	11月の 毎週土曜日	土	[始] 15:00 [終] 16:00
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]
		回			[始] [終]

※1 学校の授業にあたる時間帯等（文化祭や運動会などの学校行事を含む）を利用して「放課後子供教室」を開催することはできません。

実施回数
合計

13回

都道府県等による
文化活動や
支援事業等との
連携状況

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更したり、ページを追加しても差し支えありません。

VI 応募書類の記入例

番号	内 容
17	事業の目標と見込まれる事業効果に一致する項目を全て○枠で囲ってください。○枠で囲った事業の目標において、その他に見込まれる事業効果がある場合は、（その他）欄に簡潔に記入してください。項目1～5以外に、事業の目標と見込まれる事業効果がある場合は、項目6から順番に○枠で囲い、「事業の目標」欄と「見込まれる事業効果」欄に簡潔に記入してください。
18	予定している開催日程として、「放課後子供教室」の内容・回数・日程（予定）・曜日・時間（開始時間～終了時間）を具体的に記入してください。回数について、同じ内容の「放課後子供教室」を反復して行う場合は、その実施回数を記入してください。日程（予定）・曜日・時間について、学校の授業にあたる時間帯等（文化祭や運動会などの学校行事を含む）を利用して実施するなど、学校の授業の一環として教室を開催することはできません。
19	「放課後子供教室」の実施回数の合計値を記入してください。
20	本事業が、都道府県、市区町村及び公益法人等が実施している文化活動や事業等と連携（予定含む）した取組である場合は、連携事業の名称、実施日、支援金額等を記入してください。

Ⅵ 応募書類の記入例

様式3の記入例

必須様式

令和4年度 様式3

<収支予算書>

1 応募（第1次審査）・申請（第2次審査）

※申請（第2次審査）時に記載

2 団体コード - -

	区分	金額 (予定を含む。)	内訳
収入の部	本事業以外の支援金・助成金	3 100,000 円	〇〇県文化振興財団の助成 100,000円
	その他収入	4 6,000 円	実費徴収 400円×15名
	自己負担金	5 119,180 円	
	小計(A)	225,180 円	
	本事業による委託経費の要望額(B) 【(Ⅱ) - (A)】	6 368,000 円	参加者(子供) 10~19人: 30万円、 20~29人: 35万円、30~39人: 40万円、 40~49人: 45万円、50人以上: 50万円 の範囲内で記入
	収入合計(Ⅰ) 【(A) + (B)】	593,180 円	同額

	区分	事業の総経費の配分 (予定を含む。)	委託経費の要望額
支出の部	主たる事業費 (下記の「①」+「②」)	575,100 円	353,100 円
	① 伝統文化親子教室 (下記の「教室事業費」+「発表会等事業費」)	417,800 円	246,800 円
	教室事業費	377,600 円	216,600 円
	発表会等事業費	40,200 円	30,200 円
	② 「放課後子供教室」と連携した取組	7 157,300 円	106,300 円
	その他経費(事務費) (下記の「①」+「②」)	18,080 円	14,900 円
	① 伝統文化親子教室	8,540 円	7,000 円
	② 「放課後子供教室」と連携した取組	9,540 円	7,900 円
	支出合計(Ⅱ) 【「主たる事業費」+「その他経費」】	8 593,180 円	9 368,000 円

※委託経費の合計金額は千円単位
としてください
(百円単位以下の端数は不可)

Ⅵ 応募書類の記入例

番号	内 容
①	「応募（第1次審査）」に○を付けてください。
②	記載しないでください。（申請（第2次審査）時に記載します。）
③	本事業以外で、地方公共団体や民間団体等から補助金・助成金がある場合は、「本事業以外の支援金・助成金」として、その金額と内訳を記入してください。「文化庁が実施する他の事業」、「独立行政法人日本芸術文化振興会が実施する助成事業」、「国が実施する他の事業」と重複して支援等を受けることはできません。
④	参加者から実費（花代、茶菓子代等）を徴収する場合は、「その他収入」として、その金額と内訳を記入してください。 また原則、参加者が自ら使用・消費する材料費を対象とし、報償費（謝金）に充てることは認めません。
⑤	団体で自己負担する金額がある場合は、「自己負担金」として、その金額を記入してください。
⑥	下記の番号⑨「委託経費の要望額」を記入してください。
⑦	主たる事業費における「②「放課後子供教室」と連携した取組」として、事業の総経費の配分と、委託経費の要望額の金額を記入してください。文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」（国庫補助率1/3）と重複のないよう金額を記入してください。
⑧	「支出合計（Ⅱ）」の事業の総経費の配分として、「主たる事業費」＋「その他経費（事務費）」の合計金額を記入してください。 また、「収入合計（Ⅰ）」の金額と同額になるよう記入してください。
⑨	「支出合計（Ⅱ）」の委託経費の要望額として、「主たる事業費」＋「その他経費（事務費）」の合計金額を記入してください。 また、⑥「本事業による委託経費の要望額（B）」に⑨の金額を記入してください。

VI 応募書類の記入例

様式アの記入例

必須様式

令和4年度 様式ア

応募団体（事業者）の概要

1 応募（第1次審査）・申請（第2次審査）		2 ※申請（第2次審査）時に記載 団体コード □□-□□□-□□	
3 (ふりがな) 団体名称 提案書（様式1）の 「団体名」と同一となる よう記入してください。	〇〇〇〇からほぞんかい 〇〇神楽保存会		
4 団体区分 該当する団体区分を○枠で 囲ってください。	一般社団・財団法人 公益社団・財団法人 特定非営利活動法人 任意団体		
5 団体設立年月	平成19年4月		
6 組織 代表者、会計者、監事は 役員名簿と整合させて 必ず記入してください。 会計者と監事は兼務でき ませんが、それ以外は 兼務でも構いません。	代表者氏名： 〇〇 〇〇 会計者氏名： □□ □□ 監事氏名： ●● ●● 債務責任者氏名： 〇〇 〇〇 その他構成員： 30 名		
7 団体への加入条件	〇〇神楽保存会の設立に賛同する者		
8 設置目的	〇〇地域に伝わる〇〇神楽の保存・継承並びに、後継者の育成に努めるとともに、△△市住民の文化的向上に寄与することを目的とする。		
9 平成28年度～ 令和2年度における 国等からの 支援金の実績 実績がある年度について、 支援金の実績を記入して ください。	<平成31年度> 伝統文化親子教室事業（文化庁） 「〇〇神楽教室」を実施 /402,000円 <令和2年度> 伝統文化親子教室事業（文化庁） 「〇〇神楽教室」を実施 /356,000円		
10 令和3年度の 伝統文化親子教室事業 の実績及び活動内容	【実績】 10 ** - *** - ** ※実績がある場合は、R3の団体コード (**-***-**)を記入してください。 【活動内容】 ※実績がある場合は、令和3年度の活動内容を記入してください。 「〇〇神楽教室」を実施 /368,000円		

例年、記入漏れが多
くあります。必ず全
員記入してください。

※ 定款・規約等及び役員名簿（規約に記載されている役員全員が記載されているもの）を併せて提出すること。

Ⅵ 応募書類の記入例

【重要】

本紙（様式ア）とは別に「団体規約」及び「役員名簿」の提出が必要です。

番号	内 容
1	「応募（第1次審査）」に○を付けてください。
2	記載しないでください。（申請（第2次審査）時に記載します。）
3	提案書（様式1）の「団体名」と同一の団体名称を記入してください。また、団体名称のふりがなも記入してください。
4	該当する団体区分を○枠で囲ってください。
5	団体の設立年月を記入してください。
6	組織の情報として、代表者氏名、会計者氏名、監事氏名、債務責任者氏名（任意団体のみ）、構成員数等を必ずすべて記入してください。代表者氏名は、本名で記入してください。芸名・雅号は不可。流派の代表者（家元等）ではなく、事業を実施する際の責任者を代表として記入してください。 提案書（様式1）及び役員名簿の「代表者氏名」と同一となるよう記入してください。会計者氏名は、会計者が役員となっている場合は、役員名簿と同一となるよう記入してください。監事氏名は、役員のうち、監事又は会計監査を担当する者を記入してください。債務責任者氏名は、本事業実施における任意団体内での債務責任者について記入してください。特段決まり等がなければ代表者が兼務で問題ありません。なお、任意団体でない（法人の）場合は記入する必要はありません。会計者と監事は兼務できませんが、それ以外は兼務でも構いません。
7	団体への加入条件を記入してください。
8	団体の設置目的を記入してください。
9	平成28年度～令和2年度における国等からの支援金の実績を記入してください。実績がある年度について記入してください。
10	令和3年度の伝統文化親子教室事業の実績がある場合は、令和3年度の団体コード（例：31-031-01）を記入してください。実績がない場合は、記入不要です。
11	令和3年度の伝統文化親子教室事業の実績がある（㊟で団体コードを記入した）場合は、活動内容を記入してください。実績がある場合は、必ず活動内容を記入してください。

様式イの記入例

【重要】

※複数の団体で構成する実行委員会のみ作成、提出してください。

※都道府県名・市区町村名・団体名・事業の名称・収支予算書（様式3）の内容について、構成する全ての団体を、1団体ごとに記入してください。

令和4年度 様式イ

※申請（第2次審査）時に記載
団体コード □□-□□-□□
※実行委員会名を記入してください。
実行委員会名 ○○伝統文化親子教室実行委員会

※複数
※複数の団体で構成する実行委員会のみ作成、提出してください。
※都道府県名・市区町村名・団体名・事業の名称・収支予算書（様式3）の内容について、構成する全ての団体を、1団体ごとに記入してください。

通し番号	都道府県名	市区町村名	団体コード	団体名	事業の名称	収入の部			収入合計 (I) 【(A)+(B)】	支出の部				支出合計 (II) 【「主たる事業費」 + 「その他の経費」】				
						事業費以外の 収支金・助成金	その他 収入	自己 負担金		小計 (A)	本事業による 委託経費の要受領 (B) 【(I)-(A)】	主たる事業費 (「様式3」の(1)+(2))			その他の経費 (「様式3」の(3)+(4))			
												① 伝統文化親子教室 (「様式3」の(1)の「事業費」) + 「関係団体等事業費」	② 「関係団体等事業費」 + 「関係団体等事業費」		① 伝統文化 親子教室 取組	② 「関係団体等事業費」 + 「関係団体等事業費」		
1	〇〇県	△△市	-	-	〇〇地域活性化教室	100,000 円	6,000 円	119,180 円	225,180 円	368,000 円	575,100 円	417,800 円	377,600 円	40,200 円	157,300 円	18,080 円	8,540 円	593,180 円
2	〇〇県	■●市	-	-	〇〇系道教室	150,000 円	1,000 円	18,800 円	169,800 円	747,000 円	798,000 円	392,000 円	362,000 円	30,000 円	408,000 円	118,800 円	64,800 円	916,800 円
3	〇〇県	◎の市	-	-	〇〇日本舞踊教室	50,000 円	8,000 円	4,560 円	62,560 円	295,000 円	350,000 円	350,000 円	290,000 円	60,000 円		7,560 円		357,560 円
4			-	-														
5			-	-														
6			-	-														
7			-	-														
8			-	-														
9			-	-														
10			-	-														
11			-	-														
12			-	-														
13			-	-														
14			-	-														
15			-	-														
16			-	-														
17			-	-														
18			-	-														
19			-	-														
合 計						300,000 円	15,000 円	142,540 円	457,540 円	1,410,000 円	1,723,100 円	1,159,800 円	1,029,800 円	130,200 円	563,300 円	144,440 円	80,900 円	1,867,540 円

※スペースが足りない場合は、行の欄を変更したり、ページを追加しても差し支えありません。

Ⅵ 応募書類の記入例

記入例

(様式工)

誓 約 書

当団体は、下記 1 及び 2 のいずれにも該当しません。また、将来においても該当することはありません。
この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

また、当方の個人情報を警察に提供することについて同意します。

記

1 契約の相手方として不適当な者

- (1) 法人等（個人、法人又は団体という）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員（同法第 2 条第 6 号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
- (2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどをしているとき
- (3) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどをしているとき
- (5) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

2 契約の相手方として不適当な行為をする者

- (1) 暴力的な要求行為を行う者
- (2) 法的な責任を超えた不当な要求行為を行う者
- (3) 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為を行う者
- (4) 偽計又は威力を用いて契約担当官等の業務を妨害する行為を行う者
- (5) その他前各号に準ずる行為を行う者

【記入の注意点】

- ①住所（団体所在地）
 - ②団体名
 - ③代表者職名
 - ④代表者署名（自署）
- ①～④は、提案書の様式1、様式ア、団体規約、役員名簿の記載内容と完全一致してください。
整合性が合わない場合は第1次審査で「合格」しません。

令和 3 年 11 月 10 日

住所 東京都千代田区霞が関 3-2-2

団体名 伝文プロジェクト実行委員会

代表者職名 会長

代表者署名（自署） 文化 太郎

※申請（第 2 次審査）時に記載

団体コード： ** - *** - **